

なんだ・かんだ

◆ 20年後の日本 ◆

世界的な経営コンサルタントとして知られる、大前研一さんのメルマガで「20年後の日本」について書かれた記事がありました。分かっているものの、あらためて考えさせられる内容でした。

大前氏はこの記事の中で、20年前に想像していた今の日本の姿と、現状とのギャップは、残念ながらあまりない。(予想通り悪い方向へ向かっている。)そして更に今から20年後の日本に期待できるものはない。未来は、自分の努力で何とかするしかないのだ。と述べています。

氏の考えている問題の根本は人口の年齢構成の推移です。20年前に当時の日本の人口推移から、2005年には日本人の平均年齢が50歳を超えることがすでに分かっており、そこから現在の日本を想像し、「このままでは日本はかつて世界を席卷しながら、現在はEUの1小国になってしまった、スペインやポルトガルのように、その後数百年にわたって衰退する国になってしまう。」という危機感を持ったそうです。確かに、現在の日本は、中国にGDPで抜かれ、自動車の販売台数を抜かれ、その他のアジア各国が成長著しい中、低迷が続いています。

そして、20年後は、人口構成において最も多い年代が65~70歳の人たちとなります。こうなると日本は、基本的に国家としてやっていけないというのです。

例えば、この数字から具体的に20年後を考えてみると、

- 生産をする年代が少なくなる。
 - 介護対象者が多くなるが、介護する若者がいない。
 - 工場にも人がおらず、自衛隊、消防、警察といった、特に若い男性が必要な仕事に就く人もいない
- という活気のない国家の姿が 浮かび上がってきます。更に、
- 大量の移民を受け入れるが、余りに“急激”で、大きな社会問題になる
 - もしかしたら、近隣諸国に侵略され属国になっている
- なんていう可能性も考えられると言うのです。

「日本が再び覚醒して世界一の技術力で活躍する、あるいは、飛びぬけたリーダーが現れこの国を救うなどというのは甘すぎる予想で、おそらくこのままでは、日本の未来に明るいことは何ひとつない。」と日本の将来に大変悲観的な予想をしています。

マクロで見ると、人口総数では現在1億2700万人ですが、20年後には1億1600人程度で約8%程度しか減りません。しかし、「総人口」・「出生率」だけでなく、世代別の人口つまり、「現役世代」、「労働力人口」等を考えると、経済的な影響は非常に大きなものになります。

人口の減少は、一人又は一社当たりの消費が減少するのではなく、市場自体のキャパが縮小してしまうわけで、いくら商品が安くなっても、一人(社)当たりの購買力があがっても、需要がないのだから、供給が調整されるまで正常化することはありません。従って、日本国内で今まで通りのやり方では、じり貧になってしまうことは目に見えているわけで、需要のある場所へ自らの努力で打って出るしかないというのです。

人口減少は周知の事実ですが、その予想される(悪)影響は確実に現実となるのです。自らの力で何とかしなければ……。



■ 組織が変わります ■

当社は3月決算で、4月1日から新しい期に入ります。来期はお客様への対応を充実するために、多少組織変更を致します。商社部門の営業部は、1課と2課に別れます。1課では主に既存のお得意様を中心にお客様毎にきめの細かい対応を取ることを第一に考え営業展開していきます。2課では新しい仕事や新規開拓を担当します。また建設部門も、法人様を担当する1課と個人のお客様を担当する2課に別れ、セグメント毎のサービスの充実に努めます。更に特定需要家様の対応のため特販部を創設いたしました。来期も宜しくお願い申し上げます。



原因自分論

三寒四温、春分も過ぎ、春がそこまで近づいてきました。例年よりも今年は寒い日が続くように思いましたが、やはり西から桜は咲き春は巡ってきます。

新聞では、「株式会社〇〇増収増益。景気回復へ・・・」のような、景気の春も近づいているような記事を良く見かけるようになりました。こんな記事を見る度に「えー本当かよ。大企業は良いよな。だいたい民主党が・・・」と思ってしまう。

そんな折、日経新聞のコラム「私の履歴書」(今月はユニ・チャームの高原慶一朗会長が出稿しています。)の中でユニ・チャームに「原因自分論」という言葉があることが書かれていました。とかく私のような凡人は、売上の上がらないのを景気やライバル会社の所為に見ますが、実は原因は自分自身にあると云うのです。

この言葉を見て「ウーン」と唸ってしまいました。流石一代でユニ・チャームという素晴らしい会社を築いた経営者です。「原因自分論」良い言葉だと思います。使わせてもらいます。

代表取締役 服部 徹一郎

社員近況

● 森 直子 ●

昨年この欄で、「うれしい話のその1」で結婚のご報告をさせていただきました、森直子(旧姓山田)が産後の為1年間お休みを頂くことになりました。(実はすでに3月16日からお休みに入っています。)前回は結婚の報告を聞いた時に「辞めるの？」と聞いてしまったと書きましたが、今回も同様でした。取りあえず、1年産休を取って復職することだったので、安心しました。休みの間は、大高が代わりに務め、田口がリーダーとしてフォローいたします。ご迷惑をお掛けしますが、宜しくお願い申し上げます。ここで、森から一言。

「この度、出産のため産休をいただくこととなりました。廻りの皆様にはご迷惑をおかけし、大変申し訳ございません。初めての出産、子育てと不安ではありますが、頑張っていきたいと思っております。

約1年後復帰し、また順調に働くことができればと思っておりますので、よろしくお願い致します。」

丈夫で元気なお子さんを生んで、来年の今頃には、ママとなって元気な姿で復職して欲しいものです。



本レターのご提供に付きまして、ご不要・ご迷惑という方に付きましては、その旨ご一報頂きたいと思っております。次回からの発送を中止させていただきます。

・ 株式会社 チキリ
静岡県駿東郡清水町卸団地 73

Tel 055-971-9610 Fax 055-973-1534

E-mail gen@chikiri.com URL http://www.chikiri.com/